

企画総務委員会 送付 7－38

旧永田町小学校校舎の解体中止および保存・活用を求める陳情書

受付年月日 令和 7 年 1 1 月 1 4 日

陳 情 者 提出者 1 名

陳情書

令和 7 年 (2025 年) 11 月 14

千代田区議会議長 秋谷 こうき 様

【旧永田町小学校校舎の解体中止および保存・活用を求める陳情書】

私は、1986 年から 1993 年まで兄弟と共に永田町内から永田町小学校に通学し、その後も 27 歳で独立するまで、町内でその校舎の存在を日々感じながら育ち、母校の存在に深い愛着を持っております。このたび、旧永田町小学校の校舎について、千代田区が「解体のうえ更地化する」方針を示しているとの伺い、歴史的・文化的・教育的価値を有する本校舎を保存・活用していただきたいとの強い思いから、陳情書を提出致します。

【陳情の理由】

1. 歴史的・建築的価値の高さ

旧永田町小学校は昭和 12 年に竣工した鉄筋コンクリート造校舎であり、関東大震災後の耐震・耐火構造規格に基づいて設計された近代教育建築です。また、東京大空襲を奇跡的に生き延びた貴重な戦前の学校建築として、極めて高い文化的・建築的価値を有しています。

当時「日本一の施設、モデル校を」との理念のもと建設され、温水床暖房設備、講堂と体育館の分離構造、調理室・レントゲン室・プールを備えるなど、教育の理想を体現した画期的な校舎でした。

私の祖母（当時永田町在住）からは、1945 年の大空襲の際、戦火の中で住民がプールの水を使って命懸けで永田町小学校を守り抜いた逸話を聞いております。校舎は炎の中を耐え抜き、地域住民の命を救った「町の象徴」でもありました。

令和 7 年 10 月に行われた有識者による耐震診断では、「補強を施せば十分保存可能」との結果が出ており、戦前の技術力と保存状態の良さを改めて証明しています。

2. 教育・文化面での先進性と地域への貢献

永田町小学校は、戦後の教育においても先駆的な取り組みを多く行い、健康指導や交通安全指導、放送教育の他、国際理解教育にも力を入れ、帰国子女や各国大使館の子女を受け入れ、多様な文化が息づく学び舎でした。校舎内には世界各国の記念品や絵画、彫刻が展示され、国際交流の拠点としても機能しておりました。



私が在籍していた当時も、多くの世界的著名人（レーガン大統領夫人、ノルウェー皇太子ご夫妻、マイケル・ジャクソンなど）の来校・視察があり、国際的にも注目される小学校でした。

このように、永田町小学校は「古き良きもの」と「先進的な教育」を融合したモデル校であり、閉校後の今なお教育の理想を体現する存在です。

3. 解体・更地化による損失の大きさ

「解体のみを行い、用途は未定」との方針には大きな疑念を抱いております。更地化は建物の記憶を完全に失わせる行為であり、文化的損失であると同時に、経済的にも非合理的です。建築費が高騰する今、現存建物を活かしたリノベーションの方が費用対効果の面でも優れています。教育に最適な空間を備えた校舎を活用し、学童・文化・子育て支援などの拠点として再利用することは、区民にとっても大きな利益をもたらします。

4. 地域と未来への貢献

私は現在も区内で子育てをしており、教育現場の現状に強い関心を持っております。不登校の増加など、現代教育が直面する課題に対して、地域が支える学びと交流の場が強く求められています。

旧永田町小学校は、立地・構造・採光・空間の広がり、いずれも子どもたちの心を育てるのに理想的な環境です。地域コミュニティ、学習支援、文化活動、子育て支援など、幅広く再活用できる可能性を秘めています。

【陳情事項】

1. 旧永田町小学校の解体計画を見直し、保存・再活用の方角での検討
2. 建物の保存活用に関して、地域住民・卒業生・専門家を含めた検討会の設置
3. 歴史的建造物としての文化的価値を再評価し、区民共有の財産として保全・発信

【結び】

旧永田町小学校の校舎は、教育・文化・歴史を象徴する千代田区の貴重な遺産です。一度、建物を取り壊してしまえば、その文化的・歴史的価値は二度と戻りません。

どうか、建物の理念を受け継ぎ、拙速な解体ではなく、未来の子どもたちのために、保存と活用の可能性を真摯にご検討くださいますよう、心よりお願い申し上げます。